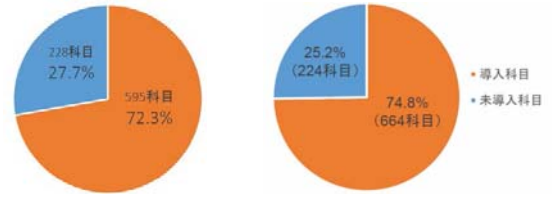




県立広島大学型アクティブ・ラーニング (CLAL) 導入状況調査結果



導入の目安：90分授業で20分相当の**行動型学修**・**参加型学修** (学期中の合計300分以上)



- ◆グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを中心に導入が進む
- ◆導入による効果：授業への参加度、理解度の向上
- ◆導入が困難な理由：説明時間が減る、クラスサイズが大きすぎる

【課題】AL 授業をけん引する**教員**、AL 学修を支援する**学生の養成**
⇒「学び合い」の仕組みづくり **加速!**

CLAL を支える「学び合い」の仕組みづくり《FD 活動》

教員	学生
ファカルティ・ディベロッパー (FDer) 担当授業等においてAL を実践し、学科内の他の教員へAL に関する 指導・助言 を行うとともに、本学におけるAL の普及・浸透に努める教員。 ①組織的教育改善 (カリキュラム改善提言、高大接続) ②AL 実践と普及 (授業ピアレビュー) ③学修成果の把握 (ルーブリック作成) ④SA との協働 (SA の活動をサポート、授業支援活動の促進) ・AP 事業推進部会員 ・学科推薦 ・行動型学修企画教員 ・学外研修参加教員	学修支援アドバイザー (SA) 授業内外において本学学生への学修支援を行い、他者の学びを支援することを通じて、 自身が学ぶ喜びを感じ、生涯学び続けるアクティブ・ラーナー (ALer) を目指す学生。 ①ラーニングcommonsでの学修相談 (試験対策、情報検索、レポート作成) ②教員の求めに応じた 授業支援 授業外学修のサポート 授業運営支援 (グループ活動等) 授業改善に資する意見 ・学科推薦 ・自己推薦 ・授業担当教員からの推薦
AL 推進者としてのFDer 現在 49名 (最終目標 30名) ・AL の知識、授業スキルは十分か? ・組織的教育改善の意欲? ・FDer ばかりが負担増?	ALer トップランナーとしてのSA 現在 57名 (最終目標 55名) ・意欲とニーズの不一致? ・アドバイスのスキルは十分か? ・教員との連携不足?
【ゴール】 FDer ・ SA の成長と協働 ⇒ ALer 育成	

【課題】 FDer の成長が急務

FDer の成長を促す (H29 年度)

- ・役割の明確化・分担
- ・ルーブリックによる自己評価
年度内に「実践力」へ
- ・授業ピアレビューの促進
「授業参観シート」を用いた相互評価
- ・実践の積極的な発信
普及のための全学 FD (ポスターセッション)

FDer 自己評価ルーブリック (案)

	A 実践力	B 応用力	C 基礎力
1. 組織的教育改善	カリキュラム・ポリシー 編成方針、教育・評価方法をアクティブ・ラーニング (AL) の観点から点検し、カリキュラム上の課題の抽出と、改善のための提議ができる。	大学入学前に培った「学びの意欲」をさらに発展・向上させ、学生を社会に送り出すために必要なことがらを実現できる。	「学びの意欲」とは何かを説明できる。
2. AL 実践と普及	AL の実践を促すとともに、他者の授業を参観し、教員を支援することができる。	AL の手法を用いて授業を行い、その活動の意義・意義を伝えることができる。	AL とは何が説明できる。
3. 学修成果の把握	アクティブ・ラーナーとしての到達度を把握するルーブリックを作成・活用し、学生の成長を可視化することができる。	ルーブリックの活用方法を理解し、作成することができる。	ルーブリックとは何かを説明できる。
4. 学修支援アドバイザーとの協働	学修支援アドバイザーと協働し、アクティブ・ラーナーを育てる授業をすることができる。	学修支援アドバイザーの役割を理解し、その活動の具体例を示すことができる。	学生による学修支援の効果や課題を説明できる。

ALer 自己評価ルーブリック (案)

	A 実践力	B 応用力	C 基礎力
【知識・技能】	大学での学修方法を理解し、さらに学びを深めるために実践を促すことができる。	授業科の学修方法を理解し、実践できる。	基本的な学修方法や、情報収集の方法を知っている。
1. 学修・方略	習得した知識や技能を、他人に教えたり、問題解決に活用したりすることができる。	習得した知識や技能を応用し、より深く学ぶことができる。	大学における幅広い学びを通じ、基礎的な知識と技能を身に付けている。
2. 知識・応用	自ら考え、問題解決に取り組むことができる。	自ら考え、問題解決に取り組むことができる。	同じことに対して異なる視点や解釈が存在することを理解し、ものごとを多角的に考えられることができる。
3. 思考力・判断力・表現力	自ら考え、問題解決に取り組むことができる。	自ら考え、問題解決に取り組むことができる。	同じことに対して異なる視点や解釈が存在することを理解し、ものごとを多角的に考えられることができる。
4. 課題・解決	自ら考え、問題解決に取り組むことができる。	自ら考え、問題解決に取り組むことができる。	大学入学において、同じ仲間や場所を共有する機会を思い起こすことができる。
5. 自律・意欲	自ら考え、問題解決に取り組むことができる。	自ら考え、問題解決に取り組むことができる。	向上心をもって学ぶことができる。
6. 共感・協働	自ら考え、問題解決に取り組むことができる。	自ら考え、問題解決に取り組むことができる。	大学入学において、同じ仲間や場所を共有する機会を思い起こすことができる。